

金城大学同窓会

《会報誌 第11号》 2017年12月発行号

平成29年度 金城大学同窓会 交流パーティー



《同窓会活動報告》

平成29年度役員会 開催報告

《平成29年度 交流パーティー 開催報告》

《各方面で活躍する同窓生》

《同窓会 開催報告》

《大学行事報告》

平成28年度卒業証書・学位記授与式、平成29年度入学式、
新入生歓迎会、新入生研修、クラブ・同好会代表者研修会、
卒業研究発表会、第42回金城祭

《トピックス》

公開講座、ゆうがく広場／悠遊健康サークル、
北國健康生きがい支援事業、
第12回保健・医療・福祉創造フォーラム、
やまの保健室 始動、
子ども福祉学科開設

《研究・教育活動報告》

研究活動成果報告会開催報告、
科学研究費助成事業採択状況

同窓会活動報告

平成29年度役員会 開催報告

《第1回役員会》

平成29年5月27日(土) 13時00分～14時20分

【議題】

前回役員会「平成29年3月24日(金)」議事録確認

1. 平成29年度役員会の改選

濱田会長から、平成29年度役員会の改選について、会則第5条に基づき、平成29年3月31日で任期満了となっている河合直人副会長及び偶数卒業期生の委員に引き続き委嘱することの説明があった。また、新委員として14期生5名、新幹事として2名を会長より委嘱することの説明があり、いずれも全会一致で承認された。

2. 平成28年度事業報告・決算報告

町野幹事から、平成28年度事業報告・決算報告について、上田会計監事及び園谷会計監事による監査の結果、会計処理が適正であったことの説明があり、全会一致で承認された。

3. 平成29年度事業計画・予算

町野幹事から、平成29年度事業計画・予算について、平成29年度事業計画を基に予算が組まれ、平成29年度は会議費の見直しを行い、会議費と交通費の項目に分けたこと。卒業生増加に伴い名簿の管理を外注依頼するための名簿管理費及び、学生支援を目的とした学生活動支援助成金の新設の提案があり、全会一致で承認された。

4. 交流パーティー

平成29年度の交流パーティーについて、開催内容等に関して以下のとおり説明があった。

- 交流パーティー案内ハガキについて、交流パーティーの様子が写真等で分かるよう、同窓会ホームページ及びフェイスブックのQRコードの追加。

- 交流パーティー案内ハガキの発送は6月中旬予定。
- 平成29年度の実行委員は、主担当は10期生、副担当は11期生。

- 実行委員について、昨年度の反省を活かしマニュアル等の作成が必要。

以上のことについて、全会一致で承認された。

5. その他

学生活動支援助成金について、運用方法等に関して以下のとおり質疑応答があった。

- 「学生活動支援助成金」の名称については資料のとおりとしたい。

- 助成金を執行するにあたり、執行方針や規程等の作成が必要である。

- 金城大学全体として発展するよう運用すべきである。

以上のことから、次回役員会までに資料等を整理、継続審議とする。

《金城大学同窓会事業計画》

■ 第1回大学同窓会役員会

5月27日(土)

■ 大学同窓会役員報告会

ホテル金沢

10月21日(土)

■ 平成29年度金城大学交流パーティー

■ 第2回大学同窓会役員会

12月初旬

■ 会報誌発行

12月下旬

■ ゼミ代表者説明会及び役員選出

12月初旬～2月初旬

■ 第3回大学同窓会役員会

3月上旬

交流パーティー関連

■ 交流パーティー案内発送

5月下旬～6月上旬

■ 交流パーティー実行委員会

6月～7月

■ 交流パーティー案内発送

8月下旬

■ 交流パーティー

10月21日(土)

その他

■ 学生支援活動

■ 同窓会名簿整理(外注)

■ 同窓生へのアンケート調査等

予算・決算 (平成28年度決算・平成29年度予算)

一般会計 (単位:円)		
	平成28年度決算	平成29年度予算
収入の部		
会費	4,820,000	5,000,000
交流パーティー厚志	20,000	—
交流パーティー参加費	64,000	—
利息	306	300
雑費	0	0
前年度繰越金	2,568,083	3,020,707
合計	7,472,389	8,021,007

特別会計 (単位:円)		
	平成28年度決算	平成29年度予算
収入の部		
特別会計繰入金	500,000	1,000,000
利息	5,155	5,200
前年度繰越金	22,931,951	23,437,106
合計	23,437,106	24,442,306
支出の部		
予備費	—	24,442,306
合計	0	24,442,306

一般会計 (単位:円)		
	平成28年度決算	平成29年度予算
支出の部		
会議費	192,420	70,000
交通費	—	150,000
交流パーティー運営費	716,770	1,350,000
金城祭補助費	232,480	300,000
会報誌制作費	492,672	600,000
ホームページ制作費	129,600	150,000
名簿管理費	—	150,000
通信費	1,107,566	1,300,000
雑費	117,174	200,000
会費戻金	0	200,000
同期会開催助成金	103,000	500,000
事務費負担金	500,000	500,000
特別会計繰入金	500,000	1,000,000
寄付金	0	—
学生活動支援助成金	—	500,000
予備費	360,000	1,051,007
合計	4,451,682	8,021,007

※【一般会計】(収入の部)合計7,472,389円-(支出の部)合計4,451,682円=3,020,707円を次年度繰越金とする。

※【特別会計】(収入の部)合計23,437,106円-(支出の部)合計0円=23,437,106円を次年度繰越金とする。

※【特別会計】繰入金(次年度繰越金)は、定期預金として管理する。

平成29年度 交流パーティー 開催報告

10月21日(土)に、ホテル金沢にて、「金城大学同窓会 交流パーティー」が開催され、卒業生43人、教職員28人の出席がありました。

はじめに、濱田陽介会長(1期生)より日頃の同窓会運営へのご理解と協力に対し、謝辞がありました。役員会にて、審議、承認された事項について濱田陽介会長から報告が行われました。

引き続き、行われた交流パーティーでは、学校法人金城学園加藤真一理事長からご挨拶、学校法人金城学園加藤真一理事長から乾杯のご発声をいた



真剣にゲームに取り組む同窓生たち



濱田陽介会長

だき和やかな雰囲気が始まりました。旧友や恩師たちとの再会に、近況報告や思い出話に花が咲く中、昨年度より発足された実行委員会を中心に企画された「呼び覚ませ!!あなたのピツタリ6(シックス)センス!!」が行われました。

ゲームの結果発表の際には景品の当選発表もあり、大きな歓声などが上がり、一緒に参加していた子どもたちも笑顔あふれる素晴らしい企画となりました。最後に、記念として集合写真を撮影し、盛会のうちに終了しました。



チーム対抗で行われたゲーム企画「呼び覚ませ!!あなたのピツタリ6(シックス)センス!!」

平成29年度役員

会 長	濱田 陽介 (1期生)	副 会 長	中野 雄介 (1期生)	河合 直人 (8期生)	
会計監事	上田 良和 (1期生)	園谷 準 (1期生)			
委 員	内島 一憲 (1期生)	今村 裕子 (1期生)	紺 昇平 (1期生)	赤津 慎太郎(2期生)	久田 緑 (2期生)
	寺井 紀裕 (2期生)	川口 雄幸 (3期生)	川嶋 玲子 (3期生)	田中 宏治 (3期生)	七野 澄麗 (3期生)
	山下 和恵 (3期生)	安土 貴子 (4期生)	今田 志未 (4期生)	林 裕也 (4期生)	赤木 由未子(4期生)
	庄田 紋子 (4期生)	清水 敦子 (4期生)	岩城 涼子 (5期生)	山崎 舞 (5期生)	越村 知恵 (5期生)
	高橋 里枝 (5期生)	松下 早希 (5期生)	池上 実希 (5期生)	辰田 沙弥香(5期生)	花井 友美 (6期生)
	稲葉 文香 (6期生)	大久保 朋美(6期生)	早崎 久穂 (6期生)	高橋 孝明 (6期生)	西村 仁美 (6期生)
	坂本 千夏子(6期生)	西野 友希 (7期生)	土田 行美 (7期生)	成川 千絵 (7期生)	西川 美香 (7期生)
	鷹合 いつか(7期生)	澤田 竜之介(8期生)	西谷 彰紘 (8期生)	青木 由依 (8期生)	竹田 圭佑 (8期生)
	鷺田 恵 (8期生)	岩田 めぐみ(9期生)	北村 允人 (9期生)	劔村 祐依 (9期生)	藤川 彩 (9期生)
	中佐 武尊 (9期生)	濱 星美 (9期生)	藤川 諒也 (9期生)	田中 貴大 (10期生)	前田 静香 (10期生)
	廣岡 恵莉香(10期生)	岩上 倫太郎(10期生)	橋本 千晶 (10期生)	池田 光次郎(11期生)	櫛引 敏裕 (11期生)
	谷内 奈津美(11期生)	三平 拓矢 (11期生)	村澤 卓朗 (11期生)	椎木 祐希 (12期生)	山本 有佳里(12期生)
	柏木 久夏 (12期生)	墨谷 沙紀 (12期生)	和田 卓也 (12期生)	東木 悠樹 (13期生)	吉藤 大貴 (13期生)
	青山 祥子 (13期生)	岡田 智成 (13期生)	中村 瑤 (13期生)	角出 遥 (14期生)	太田 圭一郎(14期生)
	坂本 恭一 (14期生)	前田 祐希 (14期生)	吉田 友稀乃(14期生)		

幹 事 岡村 綾子、斎藤 修啓、小島 聖、川口 朋子、越納 美和、松山 哲也、町野 圭亮、藤 和子

各方面で活躍する同窓生

気持ちに触れ合う喜び胸に 障がい者と全力で向き合う

福井市の「総合福祉施設あけぼの園」で、利用者の活動を手助けする生活支援員として勤務しています。当施設は障がいのある方を対象にした通所施設で、私たちは利用者一人ひとりの体調や気分に応じて、その日に取り組む活動や作業をサポートし、1日を楽しく過ごせるように努めています。

大学時代は自分の人生を決めた有意義な4年間でした。私が社会福祉士の仕事の中でも、特に障がい者を支える現場で働きたいと考えようになったのは、学外実習で実際に関わって、心が触れ合う喜びを感じたことがきっかけでした。資格試験では先生の言葉に支えられました。勉強がうまくいってなくても、必ず学生の頑張りをほめてくださるのです。合格できたのは、そのような温かい励ましのおかげと感謝しています。

卒業してすぐに当施設に勤務してから3年目を迎えます。利用者の中には自分の思いを外に表現することが苦手な方も少なくなく、私も勤務当初は関わり方に悩むこともありましたが、それでも「毎日の仕事で全力を出し切ろう」と決めて、利用者と真剣に向き合ううちに、次第に気持ちをくみ取れるようになってきたと感じています。今後をもっと勉強して、現場での経験も積み、皆さんに信頼される生活支援員になっていきたいです。



工藤 里菜さん

【社会福祉法人竹伸会 総合福祉施設あけぼの園】
社会福祉学部 社会福祉学科 平成26年度卒業 12期生



作業療法学科1期生として 幅広い現場で活躍したい

私は平成25年度に開設された作業療法学科の1期生です。福祉のさまざまな現場で活躍できる作業療法士(OT)にあこがれて選んだ新学科でしたが、4年間で学ぶ知識の量が多く、お手本になる先輩もいない状況で、毎日の授業についていくのは大変でした。学外での臨床実習の期間は、同級生と電話やLINEで励まし合ったことが思い出に残っています。

その臨床実習でお世話になった施設が、現在の勤務先である七尾市の恵寿総合病院です。私の出身地の輪島市に近く、初めてリハビリテーションの現場を体験した場所で、OTのキャリアを積んでいきたい思いから、今年4月に就職しました。

今は急性期病棟の患者様のリハビリテーションを担当しています。ケガや病気を発症したばかりの急性期は体の状態が刻一刻と変化するため、その様子に常に気を配りながら、適切なプログラムや目標を設定しなければなりません。ここでは頼れる先輩OTからアドバイスもいただけて、患者様の体をいたわりながら、機能回復に取り組んでいます。

まだまだ日々の仕事で精一杯な私ですが、リハビリテーションに関わった患者様が回復して、「ありがとう」と笑顔で退院される姿に元気をもらっています。少しずつ経験を重ねて、幅広い疾患に対応できるOTになることが目標です。



山下 香奈さん

【社会医療法人財団重仙会 恵寿総合病院】
医療健康学部 作業療法学科 平成28年度卒業 14期生



患者様との信頼関係を築き 生活を取り戻す支えになる

高校時代、部活でケガをしたときにお世話になった理学療法士(P.T.)さんの姿を見て、P.T.の仕事に志すようになりました。理学療法学科は想像以上にテストや実技の回数が多く、とにかく忙しい4年間だった記憶があります。それでも先生方の熱心な指導でP.T.の知識や技術を身につけて、国家試験でも先生の励ましの言葉に勇気付けられて、合格することができました。

卒業後の4月から「石川県済生会金沢病院」のP.T.として、現在は急性期の患者様を担当しています。1日に10人以上のリハビリテーションに関わるため、一人ひとりに十分な指導や対応ができていくかどうか、不安を感じることもあります。幸い、先輩P.T.の皆さんがいつも優しく相談に乗ってくださるので、患者様との接し方などについてアドバイスをいただきながら、個々の状態に応じたリハビリテーションの提供を心がけています。

現場に立つようになってから、P.T.の仕事で最も大切なことは、患者様との信頼関係を築くことだと感じています。心から納得して取り組むリハビリテーションは、体の速やかな回復を導くからです。患者様がその方らしい生活を取り戻すためのパートナーを目指して、これからも日々の業務に真剣に向き合い、経験を積んでいきたいです。



富澤 のどかさん

【社会福祉法人恩賜財団済生会 石川県済生会金沢病院】
医療健康学部 理学療法学科 平成28年度卒業 14期生



同窓会 開催報告

側垣ゼミ同窓会

側垣ゼミ同窓会を開催し、2期生から13期生までの46名で側垣先生を囲み楽しい時間を過ごしました。子供連れで参加した方もおられ、それぞれの近況を報告し合うなど話が尽きませんでした。年代関係なく仕事の話や社会福祉士国家試験対策の話など縦の繋がりを深めることができたと思います。(写真①)

佐々木ゼミ同窓会

佐々木ゼミ同窓会が開催され13名が集まりました。今回の同窓会で親睦が深まりました。今後も継続していきたいと思えます。(写真②)

第52回理学療法学会 金城生同窓会

全国学会の開催に合わせ、卒業生と教員で親睦を深め、交流することで情報交換だけでなく他学年の卒業生と繋がりができ、今後の活動に繋げることができました。(写真③)

医療健康学部 近況報告会

学会への参加状況や結婚の報告など卒業後の皆様の近況を知ることができ有意義な結果となりました。石川、富山で働いているPTが集まり、それぞれの県の特徴を知ることができました。1、2年に1度は集まり互いに刺激を受ける会として開催したいと思います。(写真④)

下村ゼミ卒業生真夏の祭典

金城大学下村ゼミ歴代卒業生によって懇親会を開催しました。卒業生同士で、お仕事やプライベートなど近況報告し、情報交換を行いました。また、学生時代の恩師である下村有子先生ともお話しし、学生時代の思い出を懐かしむと同時に各自リフレッシュしました。今後も年代を超えた卒業生同士で新しい視点を見出すとともに、様々な情報を共有し、充実した生活および社会の一員としての活躍を目指していきます。(写真⑤)

野口ゼミ親睦会

野口ゼミ歴代の卒業生と3・4年生の在学生在一堂に会し親睦会を行いました。卒業生17人、中退生1人、在校生12人、教員1人の31人が参加し、会を通して、世代内、世代間交流を図ることができました。(写真⑥)



同窓生生活報告の募集

同窓生の皆様におかれましては、各方面でご活躍のことと思います。その中で、「同窓会を開催しました」「同じサークルだった仲間と久々に集まりました」など、同窓生の近況報告を募集しています。是非、同窓会会報誌でも活動の模様を掲載させていただきたいと思っておりますので、お気軽に情報をお寄せください。

平成29年度 金城大学 学部・学科構成図 一覧



※平成30年4月から生活支援コースへ名称変更予定

平成28年度 金城学園 財務概要

事業活動収支計算書

(単位: 千円)

科目		金額
教育活動収支	教育活動収入計	3,743,429
	教育活動支出計	3,616,773
	教育活動収支差額	126,657
教育活動外収支	教育活動外収入計	3,485
	教育活動外支出計	25,205
	教育活動外収支差額	-21,720
経常収支差額		104,937
特別収支	特別収入計	135,367
	特別支出計	6,066
	特別収支差額	129,301
基本金組入前当年度収支差額		234,238
基本金組入額合計		-267,070
当年度収支差額		-32,832

貸借対照表

(単位: 千円)

資産の部		金額
固定資産		10,331,750
有形固定資産		9,813,676
特定資産		430,583
その他の固定資産		87,491
流動資産		2,450,325
資産の部 (合計)		12,782,075
負債の部		金額
固定負債		1,992,466
流動負債		761,811
負債の部 (合計)		2,754,277
純資産の部		金額
基本金		13,851,933
繰越収支差額		-3,824,135
純資産の部 (合計)		10,027,798
負債及び純資産の部 (合計)		12,782,075

※ 詳しくは、金城学園ホームページ (<http://www.kinjo.ac.jp/>) をご覧ください。

平成28年度 卒業生の進路結果 (平成29年5月1日現在)

社会福祉学部

社会福祉専攻

職種別	人数	職種別	人数	職種別	人数
介護職	35人	医療ソーシャルワーカー	7人	事務職	18人
支援員	11人	営業職	11人	教員	2人
相談援助職	2人	販売職	7人	製造技術職	1人
計 94人					

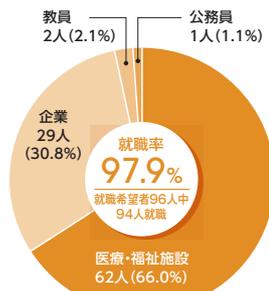
医療福祉施設	人数	進学	人数
高齢者施設	31人	大学院	1人
障害者(児)施設	11人	病院	13人
児童施設	1人	その他	1人
計 62人		計 1人	

企業	人数	企業	人数
医療、福祉	3人	情報通信業	2人
卸売・小売業	11人	サービス業	2人
金融業	1人	不動産業	1人
建設業	4人	教育、学習支援業	1人
製造業	4人		
計 29人			

教員公務員	人数	教員公務員	人数
教員	2人	公務員	1人
公務員	1人		
計 3人			

就職率 97.9%
卒業生 100人 就職希望者 96人
就職者 94人 進学者 1人

就職率97.9%=就職者数94人÷就職希望者数96人×100



社会福祉学部

こども専攻

職種別	人数	職種別	人数	職種別	人数
保育士	15人	医療ソーシャルワーカー	2人	事務職	6人
幼稚園教諭	4人	看護補助	1人	生産技術職	1人
保育教諭	10人	営業職	3人		
支援員	4人	販売職	3人		
計 49人					

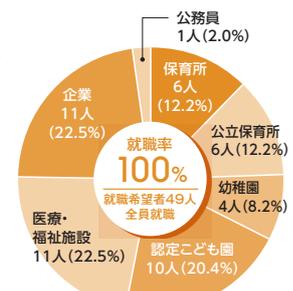
保育所幼稚園・医療福祉施設	人数	教育公務員	人数
保育所	6人	公立保育所	6人
幼稚園	4人	公務員	1人
認定こども園	10人		
児童施設	3人	計 7人	
社会福祉協議会	1人		
障害者(児)施設	4人		
病院	3人		
計 31人			

企業	人数	企業	人数
卸売・小売業	5人	企業	11人
金融業	1人	金融業	1人
製造業	2人	製造業	2人
サービス業	3人	サービス業	3人
計 11人			

就職率	人数	就職率	人数
100%	49人	100%	49人

就職率 100%
卒業生 50人 就職希望者 49人
就職者 49人

就職率100%=就職者数49人÷就職希望者数49人×100



医療健康学部

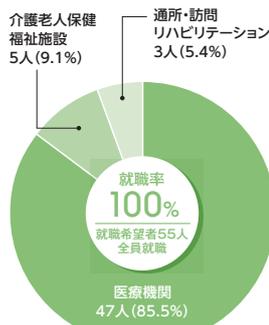
理学療法学科

職種別	人数	職種別	人数
理学療法士	55人	介護老人保健福祉施設	5人 (9.1%)
計 55人		通所・訪問リハビリテーション	3人 (5.4%)

医療福祉施設	人数	医療福祉施設	人数
医療機関	47人	介護老人保健福祉施設	5人
通所・訪問リハビリテーション	3人		
計 55人			

就職率 100%
卒業生 57人 就職希望者 55人
就職者 55人

就職率100%=就職者数55人÷就職希望者数55人×100



医療健康学部

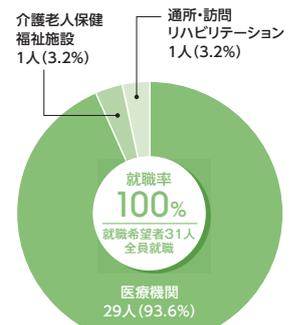
作業療法学科

職種別	人数	職種別	人数
作業療法士	31人	介護老人保健福祉施設	1人 (3.2%)
計 31人		通所・訪問リハビリテーション	1人 (3.2%)

医療福祉施設	人数	医療福祉施設	人数
医療機関	29人	介護老人保健福祉施設	1人
通所・訪問リハビリテーション	1人		
計 31人			

就職率 100%
卒業生 31人 就職希望者 31人
就職者 31人

就職率100%=就職者数31人÷就職希望者数31人×100



大学行事報告

平成28年度卒業証書・学位記授与式 平成29年3月18日

3月18日(土)に平成28年度卒業証書・学位記授与式及び金城大学大学院学位記授与式が白山市松任文化会館にて挙行されました。社会福祉学部



の卒業生150人、医療健康学部の卒業生88人、大学院リハビリテーション学研究科修了生4人が学び舎を後にし、社会に向けて新たな一歩を踏み出しました。式では、加藤真一理事長が告辞を、半谷静雄学長が式辞を述べました。続いて、祝辞が披露され、最後に、卒業生を代表して、富澤のどかさんが答辞を述べました。同日、会場を金沢東急ホテルに移し、卒業パーティーが盛大に行われました。

平成29年度入学式

平成29年4月1日



4月1日(土)に、入学式が白山市松任文化会館にて挙行され、社会福祉学部120人(うち編入学生4人)、医療健康学部91人、看護学部85人、大学院総合リハビリテーション学研究科4人の総計300人が入学し、大学生活の新たなスタートを切りました。

加藤真一理事長が告辞、半谷静雄学長が「これからの学びが生きがいとなっていくか実を結ぶ」と式辞を述べ、続いて祝辞が披露されました。最後に、新入生を代表し、社会福祉学部の白崎真帆さんが「同じ目標を持つ仲間とともに困難を乗り越え、有意義な学生生活を送りたい」と抱負を述べました。式には、多くのご来賓、保護者の皆様にご臨席賜りました。

新入生歓迎会

平成29年4月8日

4月8日(土)に新入生歓迎会が開催されました。学友会長が新入生に対して歓迎の挨拶を行い、ダンス部による

オープニング公演、在学生が新入生を案内して校内各教室で行われる企画を体験するウォークラリー、クラブ・同好会の活動紹介、豪華景品を用意した抽選会を行いました。当日は盛大に開催され、新入生にとっては学校のことを知り、先輩と交流できたことで安心が生まれ、これからの学生生活に向けて期待が高まる一日になったようです。



新入生研修

平成29年4月15日

4月15日(土)に本学の笠間キャンパスおよび松任キャンパスにて新入生研修が行われました。午前の部では、充実した学生生活を送るための計画づくりや、白山署の方を講師に招き交通安全、防犯についての講習を行いました。



午後の部では3学部に分かれて、マナー講座、レクリエーション形式の研修を行いました。今回の研修を通じて、それぞれの学部で学生同士交流を深め、福祉・医療・看護それぞれの分野で協力しながら学んでいく姿勢を互いに感じることができ、充実した一日になったようです。

クラブ・同好会代表者研修会

平成29年6月17日

6月17日(土)に、全クラブ・同好会の代表者を対象としたクラブ・同好会代表者研修会が開催されました。

クラブ・同好会担当職員からのクラブ活動支援費申請や活動報告等の書類作成方法についての説明が行われた後に、学友会執行部会を中心となり、各クラブ・同好会の活性化および活動に関して工夫していることについてレクリエーション形式で意見交換を行いました。

それぞれの団体で抱える悩みには共通する点も多く、どうすれば改善できるかを話し合えたことで、各団体の絆を深めることができたようです。

卒業研究発表会

医療健康学部 平成29年10月7日
社会福祉学部 平成29年12月5日〜平成30年2月

10月7日(土)に、金城大学医療健康学部 卒業研究発表会が開催されました。理学療法学科と作業療法学科の2学科で開催し、学生にとっては3年次よりゼミ教員の指導・支援を受けながら取り組んできた卒業研究の成果を発表する集大成の発表会です。



学生たちは、パワーポイントを用いて、自分の研究成果について自分なりの言葉で説明し、質疑応答では発表では伝えきれなかった内容を相手にわかりやすく伝えるように努力する様子も見られました。教員からの助言や在学生からの質問などがありました。卒業研究発表会では、優秀発表者の選出が始まり、優秀発表者は教員と学生の投票で選出され、卒業式で表彰される予定です。

社会福祉学部は、12月から2月にかけて各ゼミで卒業研究発表会を行います。

第42回金城祭

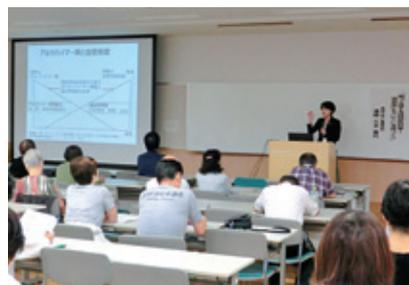
平成29年10月21日〜22日

今年度は、「みんなであつくりろー！しあわせの2days」をテーマに、第42回金城祭が10月21日(土)・22日(日)に開催されました。「ベリーグッドマン」「セレイナ・アン」によるゲストライブ、模擬店、ステージでの各種イベントなどの企画が実施されました。あいにくの天気でしたが、両日とも多くの方に足を運んでいただき、大盛況のうちに幕を閉じることができました。



トピックス

公開講座



「白山学」や体験講座などを行い、多くの地域の方々が聴講されました。なお、平成30年度も引き続き開催いたしますので、是非ご参加ください。

ゆうがく広場／悠遊健康サークル

今年度も介護福祉コースによる地域の高齢者の方々との交流を通じたアクティビティ活動として「ゆうがく広場」を、また、医療健康学部による白山市と本学が連携した地域在住高齢者を対象としたマシントレーニング、健康体操などを本学学生と交流しながら行う健康維持・改善講座事業として「悠遊健康サークル」がそれぞれ実施されており、地域の方々からたいへんご好評をいただいています。活動状況などの詳細については、大学ホームページに掲載されていますのでご覧ください。



毎年、短期大学部との共同事業として「金城大学・金城大学短期大学部公開講座」を実施しています。今年度は5月13日から10月7日（各土曜日）にかけて行い、従来の全20講座から全32講座（1日2講座）と講座数を増やして開催しました。本学が持つている教育資源だけでなく、外部講師による

北國健康生きが支援事業

北國新聞社との共催事業として「北國健康生きが支援事業」を実施しています。今年度は、9月23日（土・祝）に「看護講演会」として、看護学部・彦聖美教授による「男性介護者支援を考える」をテーマに開催し、多くの聴講者がありました。また、12月2日（土）には、「医療健康講演会」として、医療健康学部・佐々木賢太郎教授による「なぜ歩くつまずくのか？『つまずき』を科学する」をテーマに開催しました。



「医療健康講演会」として、医療健康学部・佐々木賢太郎教授による「なぜ歩くつまずくのか？『つまずき』を科学する」をテーマに開催しました。

第12回保健・医療・福祉創造フォーラム

11月18日（土）に第12回保健・医療・福祉創造フォーラムが本学にて開催され、保健・医療・福祉施設の職員、一般の方、学生などが参加しました。大会テーマを「子どもの育ちと育みのためにできること」とし、小菅江美氏（NPO法人 緑とくらの学校 理事長、森のようちえん てくてく 園長）による講演「森で育つ子どもたちが行われました。」



講演後にはシンポジウム「子どもは『なに』で育つのか」が開かれ、専門家を招き、それぞれの立場における現状や展望などを提示し、専門性の高い情報・意見交換の場となりました。

やまの保健室 始動

中山間地域では専門職の人材不足であるうえ、住民自身による健康増進の取り組みが難しく、継続的に「学習する場」の醸成や「顔をみながら相談できる場」が必要であるといわれています。そこで本学看護学部では、学校の保健室のように心や身体についての様々な気がかりや問題を看護職に気軽に相談することができ「やまの保健室」を白山ろくに開設することを目的とし、準備をすすめてきました。

多くのの方々のご協力のもと、今年の8月に看護学部の学生ボランティアと教員による活動を開始しました。「まちの保健室」はこれまでも各地で開設されたことがありますが、山間部での活動は全国的にみても珍しく、これからの超高齢社会でのひとつのモデルを指します。本活動は白山ろくの住民や専門職からも期待されており、今後、発展していけるよう努力して参ります。

子ども福祉学科開設

この度、金城大学では、地域社会における保育・福祉人材不足の課題解決に向け、既設の「社会福祉学部社会福祉学科」子ども専攻（入学定員50人）を発展的に組織改編して、平成30年4月に「社会福祉学部子ども福祉学科（入学定員70人）」を設置します。詳細は大学ホームページをご参照ください。

退任教職員のご案内

社会福祉学部の黒田しづえ教授、医療健康学部の烏山亜紀准教授、看護学部の吉岡一実教授、曾我浩之教授、新谷恵子教授、山本澄子教授、藤川君江講師、東知宏講師、武田陽子助教、大学院の吉元洋一教授の10人が平成29年3月末で、看護学部の桶作梢助手が同年8月末で退職されました。



研究・教育活動報告

研究活動成果報告会開催報告

本学教員を対象に、学内競争的資金として交付される特別研究費・国外研究費に採択された研究活動について、10月21日～10月22日の期間で実施された活動成果報告会（ポスター発表）の発表者は次の通りです。



- ① 伊藤愛助手（看護学部）
・「カナダにおける小児在宅医療支援システムの報告」
- ② 神谷晃央講師（医療健康学部）
・「スクワット肢位の股関節位置は着地動作時の下肢関節角度及びモーメントに関連するのか」
- ③ 小島聖准教授（医療健康学部）
・「ラット拘縮モデルに対する牽引とモビライゼーションが拘縮の予防に及ぼす効果」
- ④ 小島聖准教授（医療健康学部）
・「マウス変形性膝関節症モデルに対する微細振動が関節軟骨に及ぼす影響」
- ⑤ 佐々木賢太郎教授（医療健康学部）
・「下肢関節位置覚の精度を定量化する装置の開発」
- ⑥ 澤俊二教授（医療健康学部）
・「慢性脳血管障害者の総合的追跡調査 発病10年 片麻痺手感覚・知覚機能の推移」
- ⑦ 下田裕子講師（看護学部）
・「白山ろくの人々の認知症介護の経験の実態と地域活動の対応課題」
- ⑧ 田中克恵准教授（社会福祉学部）
・「特別養護老人ホーム入所者の終末期に関わる多職種チームケア 成果尺度の開発」
- ⑨ 野口雅弘講師（医療健康学部）
・「仰臥位エルゴメータにおける回転数測定方法の開発」
- ⑩ 樋貝繁香教授（看護学部）
・「白山麓の住民の豊かな暮らしを支える一次予防に向けた研究」

（五十音順）

科学研究費助成事業採択状況

文部科学省及び独立行政法人日本学術振興会による科学研究費助成事業は、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、豊かな社会発展の基盤となる独創的・先駆的な研究に対する競争的研究費（助成制度）です。平成29年度の採択・交付者は次の通りです。

【金城大学】

- ① 川邊弘之教授（社会福祉学部）【研究代表者】
・「劣化した点字図書の復元システムの構築」
- ② 木林勉教授（医療健康学部）【研究代表者】
・「大学生と高齢者が協同学修で開発する介護予防支援者養成教育プログラム」
- ③ 越納美和助手（看護学部）【研究代表者】
・「大学生と地域住民の多世代協働による『観光資源活用型健康増進プログラム』の開発」
- ④ 下村有子教授（社会福祉学部）【研究代表者】
・「全盲学生のボランティアを支援する授業資料等の点字への翻訳システムの提案」
- ⑤ 高山成子教授（看護学部）【研究代表者】
・「血液透析を受ける認知症高齢者の主観的経験 —標準的看護方法構築に向けて—」
- ⑥ 田中克恵准教授（社会福祉学部）【研究代表者】
・「特別養護老人ホームの終末期ケアにおける多職種チームケア プロセスモデルの開発」
- ⑦ 田淵祥恵講師（看護学部）【研究代表者】
・「夜勤・交代制勤務の看護師に対する睡眠衛生教育プログラムの開発」
- ⑧ 永井将太准教授（医療健康学部）【研究代表者】
・「理学・作業療法士の臨床実習における学生支援のための e ポートフォリオの開発と検証」
- ⑨ 彦聖美教授（看護学部）【研究代表者】
・「男性介護職のソーシャル・キャピタルの特徴を踏まえた健康支援のあり方に関する研究」
- ⑩ 柳原真知子教授（看護学部）【研究代表者】
・「女性冷え性の東洋医学的所見と生体指標との関連及び冷え性ケアの効果検証の研究」

（五十音順）

【金城大学短期大学部】

- ① 新井浩准教授（ビジネス実務学科）【研究代表者】
・「環境音の可視化による聴覚障害者支援 —マンガ表現を用いた臨場感フォントによる支援—」